

令和８年度 第２回関市自転車活用推進協議会 議事概要

1. 日時

令和８年８月３日（月）１０：００～１２：００

2. 議事

- (1) 前回の振り返り
- (2) 自転車活用推進計画骨子（案）について

3. 議事概要

(1) 前回の振り返り

前回の振り返りに関する意見等はなし。

(2) 自転車活用推進計画骨子(案)について

委員の意見及び事務局の回答は以下のとおり。

○シェアサイクルの導入検討はどのような状況か。

⇒シェアサイクルを導入している岐阜市に導入に至った経緯や活用状況等についてのヒアリングを実施する予定である。関市の実情にどのように合わせられるか検討段階である。

○長良川鉄道のサイクルトレインの実施状況はどの程度か。

⇒今夏より、列車と区間を限定した上で、１列車に５台までの制限を設けて運行しており、利用状況は１日１、２台程度である。全時間帯や全区間での運行は乗客数との兼ね合いから困難であり、閑散区間での運行としている。

○市内の自転車販売・整備事業者が減少している。自転車活用を推進していくのであれば、自転車整備等を行っている事業者の周知も重要である。

○骨子（案）の「自転車ネットワーク計画の策定」については「作成すること」を明記するに留めるのか、「自転車ネットワーク計画」そのものを掲載するのか。

⇒自転車ネットワーク計画を掲載する予定である。自転車ネットワーク計画は、現在検討中であり、第３回自転車活用推進協議会にて協議したい。

○骨子（案）の「自転車通行空間の整備」担当が「関市土木課」となっているが、県道なども対象か。対象であれば、県の担当課も併記すべきではないか。

⇒連続したルートを設定するため、県道等も対象とし、協力をお願いしたい。主体は関市土

本課であるが、県担当部署との協議体制を明記する方向で検討する。

○矢羽根の整備については引き直し等の維持費用もかかってくることから、必要性を検討した上で、整備案を示してほしい。

○駐輪場の整備について、駐輪スペースを枠で示す形式では、自転車が盗難に遭う恐れがある。自転車を地球ロックできるような設備の導入も検討して欲しい。

⇒駐輪場の立地や利用状況を踏まえて検討する。

○通学路について、歩道がない区間などもあることから、優先的に環境を整えていただきたい。調査を含めて検討して欲しい。

⇒現地確認を行い、対応策を検討していきたいと考えている。高校生からの危険状況の聞き取りも可能であれば、計画へ反映したい。

○「パブリックコメントをHP上で掲載し、市民の意見を反映する」とあるが、HP上での公開だけではなく、SNS等でも発信したほうが良いのではないかな。

⇒SNS等も通じて幅広く周知できるよう検討していきたい。

○長良川鉄道のサイクリング列車について、早朝の1便だけを実施していると思うが、間に合わなくて利用できないという声を聞くこともあるため、便数を増やすことはできないかな。

⇒現在サイクリング列車の対象となっている便以外は混雑しており難しい状況ではあるが、今後検討していきたい。

○関本単線は栄町4交差点を境に西と東で整備形態が異なっている。西側については利用しにくい。また、国道156号線沿いの矢羽根が引いてある場所を自転車で走ると、矢羽根がない方が良くないとさえ感じる。本当に自転車が好きな方、あるいは自転車をよく利用される方が、どのような意見を持っているのかをよく聞いて、反映させていただく必要がある。

○自転車活用推進計画における施策は、自動車から自転車への転換などに重点を置くべきではないか。そのためには市内の狭い道や商店街などに自転車で来られるようにするなどの、具体的な施策を検討していくことが良いのではないかな。

○自動車から自転車への転換を図る上で、公共交通の活用が重要ではないか。そのため、長良川鉄道におけるサイクリング列車の利便性を高めていく必要があると考える。全国の事例も踏まえながら検討して欲しい。

○日常利用・観光利用・サイクリストと段階的に利用シーンを想定し、ネットワークを検討

すると良いのではないかと考える。併せて、シェアサイクルについても、観光を対象としたものだけでなく、日常利用として使うことを視野に検討すると良いのではないか。

○関商工高等学校は歩道がない区間やセンターラインが無く車両がすれ違えない道路を利用して、自転車通学が多い。また立地の関係で隣接する市から登校する学生も多い。そのため、隣接する市や国・県等と積極的に連携しながら整備を進めてほしい。特に江南関線のマーゴ南側の坂道については学生事故が多発しているため事故対策等も含めて整備してほしい。

⇒事故に関しては、カーブミラーの設置等の早々に対応できることから進めていきたいと考えている。安全・安心な走行環境の整備を第一に進めたい。

○ヘルメットの着用率向上について、中学校では支給されるのに対して、高校入学時に買い替えなければならない状況である。購入補助もあるが、中学校から高校に進学する際に、買い替える必要がなければ、ヘルメットの所持率が上がり、おのずと着用率もあがるのではないか。

○自動車からの転換を図り、自転車の利活用を推進していくことを、国道事務所としても積極的に進めていこうとしている状況である。そのため、必要な支援・議論を重ねたいと考えている。国道 156 号も路線として関連するようであれば、積極的に整備を進めたい。